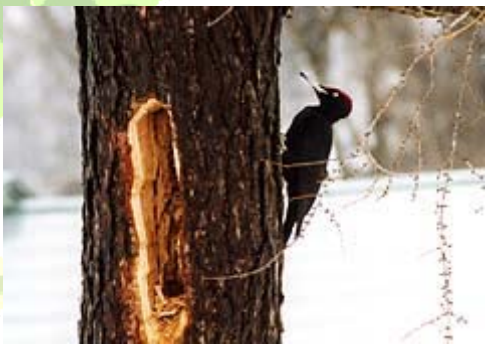
自然にやさしく人にやすらぎの田舎（まち）

ブナ北限の里づくりをめざして



Kuromatsunai
北海道　黒松内町

黒松内の概要

「黒松内（くろまつない）」　・・・ 語源：アイヌ語「クル・マツ・ナイ」。和人の女のいる沢

昭和３０年　１月１５日：合併「三和村」に。
（旧樽岸村中ノ川地区、旧黒松内村、旧熱郛村）
〃　３４年　１月　１日：町制施行「三和町」に。
〃　３４年　５月　１日：町名改称「黒松内町」に。

位　　置

本町は、北海道南西部、後志管内の南端にあり、札幌市と函館市のほぼ中間点に位置し、北は寿都町を経て日本海を臨み、南は長万部町を経て太平洋を臨んでいますが、いずれもわずかな距離で直接海岸に接することがない特殊な地形となっています。

○面　積＝３４５．４７ｋ㎡
○日本海・太平洋間＝２８ｋｍ
○人　口＝３，４５７人（平成１７年国勢調査）

気　　候

春～夏：南南東の風（太平洋側）が噴火湾で発生する濃霧を運び、しばしば低温。
　冬　：北西の風（日本海側）が大量の積雪（２ｍ以上）をもたらす。

地　　勢

・高山や平野が少なく、ほとんどが丘陵を成している。
・ＪＲ黒松内駅周辺に市街地形成。
・主要幹線道路からはずれ、緑地や河川等の優れた自然が市街地周辺に残る。
・町の中央部を朱太川が貫流し、これを主流とした中小河川流域に農地が形成されている。

歴　　史

天保　４年（1833 年）：道南の松前から「花岡利右衛門」が定住。
安政　３年（1856 年）：黒松内山道［長万部～黒松内～歌棄（日本海側）］完成。交通の要衝となる。
明治　４年（1871 年）：黒松内市街地入植、各地に農場開設。
明治３６年（1903 年）：函館～熱郛（現白井川地区）鉄道開通。鉄道のまちとしてにぎわう。
昭和　３年（1928 年）：室蘭本線開通。鉄道関係者減。農業のまちとして再び歩みはじめる。
　　歌才自生ブナ原生林天然記念物指定。
昭和３０年代以降　：乳牛が導入。後、機械化と経営拡大。
　　社会福祉法人進出。社会福祉施設が充実（現在 10 施設）

後志管内随一の「酪農と福祉の町」としての道を歩む

「ブナ北限の里づくり」への道のり

○ ８０年代前半までの黒松内

昭和３０年以降「酪農と福祉の町」としての道を歩みはじめた本町は、住民の生活水準を向上させるため水道・道路・公営住宅整備、小・中学校の改築等の基盤整備を進めてきました。

しかし、高度経済成長による産業構造の変化や生活水準の向上により、農業は大規模化を余儀なくされ、小規模農家の離農が始まり、多くの地方の町村同様に若者の流出による過疎化と住民の高齢化は、地域の努力を越えて確実に進み、農業のほかに基幹産業を有しない本町の基盤を揺るがすに等しい大きな問題となっていました。

また、名跡旧跡等を有しないため、観光を地域の産業とする取組みもありませんでした。

このような状況下で、町民の生活を安定させながら町の産業を発展させるため、長期的な展望に立った課題解決の基本的指針として、「第１次総合計画」を策定することになりました。

昭和６０年度をスタートとするこの計画では、「地場産業の振興を図るため農業生産物の付加価値を高めながら１．５次産業を育成する。」「自然資源を生かした観光レクリエーション拠点の整備を図りながら都市住民との交流を深める。」という目標を設定しました。

計画の策定に際し、議会や総合計画策定審議会から「観光開発など具体化した問題を検討するための専門機関をつくる必要がある。」と附帯意見があったため、町は、町長の諮問機関として「まちづくり推進委員会」を設置しました。

○ まちづくり推進委員会

目　的：この委員会は、黒松内町総合計画に基づき実施される「まちづくり施策」を住民参加と協力によって推進するため、各種調査・検討を行い、総合的見地から判断し、町長に提言することを目的とする。

組　織：商工会、農業協同組合、民間企業、体育協会、文化人、各種サークル・団体等、関係行政機関職員、その他町長が必要と認める者　以上１５名で組織（現在１０名）

役　員：委員長１名、副委員長１名、監事２名

○まちづくり推進委員会の検討経過

昭和６０年　５月：まちづくり推進委員会設立

１０月：総合計画概要、地下資源開発計画(温泉)、1.5 次産業、町の花・木

１２月：運動公園事業の概要、国有林野利用計画(苗畑跡地)、都市との交流事例、町の花・木の公募結果

６１年　３月：「ブナ」を町の木に制定。花は選定されない。（議会報告）

「歌才ブナ林・運動公園に隣接する農業開発公社所有の２０ha の土地を取得し複合的に利用、資料館をリピート性ある複合施設とするため今回整備を見送り、野球場を２年繰り上げ運動公園に整備する」件を町から説明。

１１月１８日：４名の委員からなる小委員会が、２０ha の土地に計画されている森林公園構想（仮称）に対しての考え方「横北限の里づくり構想」をまとめる。

２７日：小委員会は推進委員会に構想を説明、理解を得る。同日町長に構想を提言。

○ 「ぶな」へのこだわり

昭和　３年１０月２２日：自生北限「歌才ブナ林」天然記念物指定（内務省告示第 293 号）
　　１９年ころ　　：木零戦プロペラ資材として伐採計画を館脇北大教授らが嘆願し阻止
　　２９年　　：村の財政危機による伐採計画を地元住民らが請願し阻止
　　３９年　９月２７日：歌才ブナ林鳥獣特別保護区に指定
　　５０年１０月３１日：「白井川ブナ林」北海道保護林指定
　　５９年　６月　　：第１回歌才ブナ林自然観察会（町・営林署主催）
　　６０年　６月　９日：歌才ブナ林自然観察会（国際森林年、全国一斉ブナ林観察会）
　　９月　　：白井川ブナ林「北海道の自然百選」選定
　　６０年ころ　　：漢字「ブナ」（橅･椈･山毛欅）から「橫」を用いるようになる
　　６１年　１月　　：産直会員制度「橫北限の里黒松内会」スタート
　　３月　１日：「ブナ」を町の木に制定
　　６月　１日：歌才ブナ林自然観察会
　　（ブナ原生林保護キャンペーン観察会）

○ 主人公にふさわしい「ぶな」

ブナの持つ良いイメージ

1　ヨーロッパでは、ブナの生ずるところ常に美しいと語り継がれ肥沃な土地をつくる。
2　美しい樹相からブナ林は「森の母」、保水力が下木や動植物を助けることから「森の医者」とも言われている。
3　森林浴の中でもブナからでる芳香は健康に良く、オゾンを大量に発生する。

北限のブナにまつわる話題

1　ブナの北限地帯として保存が決ったとき、候補地として西の沢・歌才・島牧の３箇所が挙がり、予備調査に来た新島先生が歌才のブナの樹想のすばらしさに「北のヤシの木だね」と誉め称え、昭和３年に国の天然記念物に指定される。
2　歌才ブナ林に２度の伐採計画が持ち上がったが、学術的に評価する学者と地域住民の反対がこれを救い現在に至っている。
3　ブナは一般的に木偏に無と書きますが、最近では木偏に貴という字が書かれるようになった。

ブナには健康でクリーンなイメージがあり、特に北限としての歌才ブナ林には、学術的にはもちろん、それに係わる**地域の人々の生活や物語**があり、**国際性を有する誇れるシンボル性**がある。

物　　語

先人たちが守ってきた北限のブナ林と自然から、次のような物語が浮かびあがりました。

黒松内は北限のブナが生い茂る大地であった

↓

ブナの森からいずる清流は朱太川となり肥沃な大地を造った

↓

大地で育まれてきた人々の生活は酪農と福祉の町として結実した

「北限のブナ」は、有史以前から現在まで変わることなく
地域の歴史を見守ってきた主人公

「橅（ぶな）」から「横」へ

ブナは、製材として加工しにくいなどの理由から、価値のない木として、一般的に「木」偏に「無」と書いて「ぶな＝橅」と書きます。

しかし、美しい樹相から「森の母」、保水力が下木や動植物を助けることから「森の医者」ともいわれ、自然環境のシンボルとして高い評価を得ていることや、北限のブナ林として天然記念物に指定され、黒松内に住む人々の誇りであり、黒松内にとって欠かすことのできない貴重な存在であることから、独自に「木」偏に「貴」と書いて「ぶな＝横」と読ませています。

都市と農村の交流

８０年代は、「便利」「快適」「効率」を優先した時代から成熟し、ゆとりやうるおいなど精神的な豊かさを求めるきっかけの時代でもありました。そのような時代背景のもと、本町は一般的にまちづくりの成果目標とされていた「定住人口の増加」から「交流人口の増加」ということに視点を変更しました。

ヨーロッパでは、週末や長期休暇を田舎でのんびりと過ごすという習慣があり、都市生活者が農村で自然に囲まれながら日ごろの疲れを癒し、その土地ならではの食材を食すことが生活の一部として溶け込み、多くの人々が田舎を訪れます。

当時の日本には、余暇を田舎で過ごすという習慣がほとんどなく、本町にはブナ林を中心とした恵まれた自然はありましたが、滞在拠点、自然の情報や体験を提供するインフォメーション機能、そして本町オリジナルの食がなかったことから、いかに黒松内らしく自然と共生した持続可能なまちづくりを進めながら交流人口を増やすかが、最初の課題となりました。

ブナ北限の里づくりスタート

まちづくり推進委員会から「ブナ北限の里づくり構想」が提唱され、町はこの構想を受けて、昭和６３年（1988 年）、歌才ブナ林天然記念物指定６０周年という節目の年に「ブナフォーラム８８ｉｎ歌才」を開催し、全国にブナ北限の里づくりを宣言。

平成元年、ブナ北限の里づくり構想が本格的にスタート、以来、４つの目標の実現に向かって、地域づくりに取組んできました。

＝４つの目標＝

1　ブナ北限の里らしい自然体験、農業･農村体験の提供
2　ブナ北限の里らしい美しいアメニティの創出
3　ブナ北限の里らしい新鮮で安全なグルメの提供
4　ブナ北限の里らしい学習、文化イベント、スポーツの充実

○ ブナ北限の里づくり構想実施事業

年度	ハード事業	ソフト事業
63 年度		「ブナフォーラム in 歌才」開催 もち米焼酎「横しずく」発売
元年度	歌才森林公園完成	
２年度		自然ガイドブック・ＰＲポスター作成 ブナ林テーマソング「北の横林」作成 シンボルマーク制定
３年度	歌才自然の家開設 歌才ブナ林駐車公園整備（道事業）	ブナウォッチング９１開催 ふるさと味便り会員交流の夕べ開催 ブナ里かんじき再発見実施 ブナ里オリエンテーリングビデオ作成 もち米純米酒「横のせせらぎ」発売
４年度		ブナ里自然体験マップ・ＰＲ絵はがき・ブナ里ＰＲ工房エプロン作成 もち米吟醸酒「横のせせらぎ」発売 特産ワイン「横のささやき」発売 愛媛県野村町（現西予市）と姉妹町提携
５年度	ブナセンター、特産物手づくり加工センター、オートキャンプ場開設	観光パンフレット作成
６年度	温泉ボーリング実施	
７年度		添別ブナ林取得
８年度		ふるさと景観条例制定
９年度	ミニビジターセンター開設	
10 年度	黒松内温泉開設	環境基本条例制定
11 年度	特産物展示販売施設（道の駅）開設	
16 年度		フットパス「チョポシナイコース」整備
17 年度		「北限のブナ林」北海道遺産選定記念事業開催 フットパス「西沢コース」「寺の沢川コース」整備
19 年度		景観行政団体になる
20 年度		フットパス国際フォーラム開催 フットパス「歌才森林公園コース」整備
21 年度		景観計画策定
23 年度	地域再生拠点交流観光研究実験施設（アンジュ・ド・フロマージュ）開設	

ブナ北限の里づくり（黒松内型都市と農村の交流）概念図

「ブナ林」を中心とする優れた自然

潜在的な資　源

「農」が持つゆるやかな空間

シンボルテーマ

1　ブナ北限の里らしい自然体験、農業・農村体験の提供
2　ブナ北限の里らしい美しいアメニティの創出
3　ブナ北限の里らしい新鮮で安全なグルメの提供
4　ブナ北限の里らしい学習、文化イベント、スポーツの充実

築いてきた資　源

ハード事業

●アウトドア

オートキャンプ場

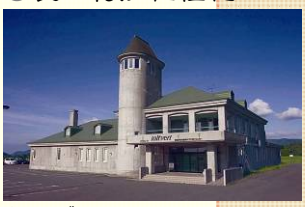
●滞在型交流拠点

歌才自然の家

●情報拠点・環境学習

ブナセンター

●食の付加価値化



トワ・ヴェール

●憩い

ぶなの森（温泉）

●交流

トワ・ヴェールⅡ（道の駅）

ソフト事業

●安らぎの空間

添別ブナ林・朱太川

●食の提供

ハム・チーズ・パンなど

●＋αの魅力

小物店・民宿・就農など

●イベント

フットパス・ブナウォッチングーなど

●体験学習・人材育成

ぶなの森自然学校

●景観保全

景観修景

資源提供

黒松内に目的を持って訪れた人　年間約１５万人

潜在的な資源

天然記念物　歌才ブナ林

黒松内市街地から2kmの場所に約９２haのブナ原生林が広がっています。

昭和３年１０月２２日、自生北限のブナ林として天然記念物に指定。以後２回の伐採の危機（太平洋戦争時に木製戦闘機用プロペラ材、昭和２９年時の村の赤字財政補填）がありましたが、ブナの学術的な価値の保存を訴えた大学教授と地域住民の嘆願により難を逃れ、現在に至っています。

平成２０年に開催された「北海道洞爺湖サミット」において、気候変動のモニタリングサイトがブナ北限の地域に配置することが提案されるなど、ブナの北進及び動物の生態変化の監視にも重要な役割を果たすことが期待されました。

農村特有の牧歌風景

農村特有の田園風景、牧歌的風景は、農村の「生業（なりわい）」がもたらすものであり、食料に負けず劣らず農業が生み出す重要な産物です。

町内各所には牧草地が広がり、なだらかな丘陵地に草を食（は）む牛やサイロがアクセントとなった牧歌的な風景を眺めることができます。

ゆったりとした農村風景とブナ林を中心とした自然風景が、黒松内の空間を築いています。

※ 写真中心の木はブナ。放牧地でもシンボルとして保存されている事例です。

道央と道南の結節点

札幌市と函館市の中間点にあり、町内を道央・道南地域を結ぶ幹線道路３本とＪＲ函館本線が走ることに加え、終点を根室市及び網走市とする「北海道横断自動車道」の起点ともなり、交通上重要な位置を占めています。（写真は、黒松内新道工事）

また、日本海と太平洋間が約２８km と、我が国で最も狭い特異な地形に位置しています。

北海道遺産「北限のブナ林」

平成１６年、天然記念物 歌才ブナ林をはじめ、白井川、添別両ブナ林を含めた「北限のブナ林」が北海道遺産に選定されました。

北海道遺産とは「次世代に遺したい北海道道民の宝物」という思いを込めた道民の運動です。

北限という特殊性だけでなく、ブナ林を活かしたまちづくりなど地域の「思い入れ価値」が高く評価されました。

北海道遺産
Hokkaido Heritage

黒松内の清流

町内を縦貫する朱太川をはじめ、豊かな森が育んだ美しい川が流れています。

鮎やヤマメ、イワナなどを目的に多くの釣り客が訪れ、７月上旬にはフライフィッシングの楽しさ、マナーなどを一流の講師陣から学ぶことができるイベントが有志により開催されるなど、大切な資源として活用されています。

黒松内低地帯

太平洋側の長万部町から本町を経て、日本海の寿都町へ続く黒松内低地帯は、夏は南から冷たい風と海霧が流れ込み日照が少ない特殊な気候となっています。

ブナをはじめとする広葉樹主体の本州型の森林は、この低地帯が境界となっていることから、温暖化による自然界での環境変化を実際に見ることができる貴重な地域として注目されています。

築いてきた資源

シンボルマークの制定

町木であるブナの葉と自然豊かな森でしか生息できない天然記念物「クマゲラ」をモチーフに平成２年に制定。名刺、封筒、看板等に活用しています。

景観重要建造物

歌才自然の家（自然体験学習宿泊施設）

自然体験・滞在型交流の拠点としての機能と研修施設としての機能を有しています。

歌才森林公園に隣接し、周囲の自然景観に調和した建築デザインと色彩にしました。

黒松内の交流施設の基本コンセプト、シンボルの塔、緑の三角屋根、落ち着いた色彩の外観第１号です。

開館年度	平成３年度	
事業費	道振興補助金	54,000 千円
	地域総合整備債	260,700 千円
	ふる里創生資金	84,211 千円
	一般財源	7,716 千円
	計	406,627 千円
規模	RC 造 2 階建、1,143.22 ㎡	
設備	部屋数１４室：定員４０名、レストラン、大浴場、和室研修室	
管理	指定管理者（3 セク：㈱ブナの里振興公社）	

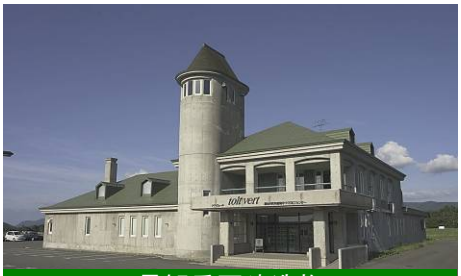
景観重要建造物

ブナセンター（ブナの資料展示・実習工房）

北限のブナ林と黒松内の歴史にまつわる資料を展示しているほか、自然に関する情報を入手でき、さらに三つの工房（食品・陶芸・木工）で、創作体験ができます。

ブナセンターの本当の魅力は豊な自然を活用した野外での実践活動です。四季を通じて様々な催しが開催されています。

開館年度	平成５年度	
事業費	道振興補助金	77,000 千円
	地域総合整備債	241,700 千円
	過疎債	16,300 千円
	ふる里創生資金	39,354 千円
	一般財源	8,932 千円
	計	383,286 千円
規模	S 造 2 階建、872.55 ㎡	
設備	ブナホール（ブナ・町歴史展示）、陶工房、食工房、木工房、図書館、研修室	
管理	町教育委員会文化振興Ｇ	



景観重要建造物

トワ・ヴェール（特産物手づくり加工センター）

仏語で「緑の屋根」という意味のトワ・ヴェール。

なだらかな牧草地の丘の上に建ち、牛乳など黒松内産の新鮮な素材を活かしてチーズ・アイスクリーム、ハム・ソーセージを製造・販売しています。２階では、牧歌的な風景を見渡しながら、チーズフォンデュなどヨーロッパの田舎をほうふつさせる黒松内オリジナルの食を堪能できます。

開館年度	平成５年度	
事業費	道振興補助金	114,213 千円
	山村振興補助金	63,207 千円
	過疎債	228,900 千円
	一般財源	18,597 千円
	計	424,917 千円
規模	RC 造 2 階建一部 S 造、1,035 ㎡	
設備	乳加工室、肉加工室、リサーチルーム（製品販売、レストラン）	
管理	町産業課	

歌才オートキャンプ場「ルピック」

３６０度林に囲まれた自然の中で森林浴をしながら過ごせるオートキャンプ場です。

ブナセンターに隣接し、2.2ｈａのフィールドには、テントサイトとバンガローがゆったりと配置され、お隣同士気兼ねなくのんびり過ごせ、各サイトにある直火スペースでは焚き火を楽しむことができます。

開館年度	平成５年度	
事業費	構造改善補助金	71,764 千円
	過疎債	102,200 千円
	ふる里創生資金	5,447 千円
	計	179,411 千円
規模	敷地面積	22,400 ㎡
設備	テントサイト 24 箇所、バンガロー3 棟、トイレ棟、管理棟（シャワー・コインランドリー）、ごみステーション	
管理	町教育委員会文化振興Ｇ	

景観重要建造物

ミニビジターセンター

北海道遺産５２の一つに選定された北限のブナ林の添別ブナ林に隣接し、牧草地の中に建つコテージ。

木材をふんだんに使ったゆったりとした室内は、野外活動、環境学習などの滞在スペースとして、利用できます。

開館年度	平成９年度	
事業費	道振興補助金	21,000 千円
	過疎債	22,500 千円
	一般財源	2,941 千円
	計	46,441 千円
規模	木造 2 階建	233.28 ㎡
設備	多目的ホール、調理研修室、研修室、宿泊研修室	
管理	指定管理者（添別ブナ林環境保全活用事業振興協会）	

景観重要建造物

黒松内温泉「ぶなの森」(健康増進交流センター)

歌才ブナ林に隣接し、アウトドアを満喫した後に、ゆっくりとくつろげるスペースとなっています。

泉質は、アルカリ性で、肌がツルツルになる美肌の湯です。

洋風の浴室にはミストサウナ、和風の浴室にはフィンランドサウナと２種類のサウナが日替わりで楽しめるほか、岩盤浴も設備されています。

開館年度	平成１０年度	
事業費	道振興補助金	81,000 千円
	過疎債	543,800 千円
	一般財源	48,229 千円
	計	673,029 千円
規模	RC 造平屋建	1,439 ㎡
設備	洋風・和風浴室(各露天風呂)、家族風呂、大休憩室、売店、休憩室、幼児図書室、ファミリールーム	
管理	指定管理者(3セク・㈱ブナの里振興公社)	

景観重要建造物

トワ・ヴェールⅡ(特産物展示販売施設:道の駅)

国道５号沿いにあり、黒松内の玄関口として、観光情報の提供、特産物の販売をしています。

パン工房があり、北欧型のおもてなしの食を提供する一翼を担っています。

観光情報誌「北海道じゃらん」の「道の駅満足度ランキング 2008」で１位に選ばれました。

開館年度	平成１１年度	
事業費	山振補助金	219,033 千円
	過疎債	202,100 千円
	一般財源	60,465 千円
	計	481,598 千円
規模	RC 造平屋建一部 S	763 ㎡
設備	パン工房 24 時間トイレ、パン・特産品販売コーナー、レストラン 58 席、インフォメーション、地域農産物販売コーナー	
管理	指定管理者(3セク・㈱ブナの里振興公社)	

産業遺産保全活用モデル施設

ｱﾝｼﾞｭ･ﾄﾞ･ﾌﾛﾏｰｼﾞｭ(地域再生拠点交流観光実験研究施設)

赤井川食農教育ファーム構想の中核施設として、チーズやお菓子の販売をしています。

予約制レストランでは、ここでしか味わえない北欧風ディナーやランチを御賞味いただけます。

開館年度	平成２２年度	
事業費	過疎債	49,400 千円
	一般財源	3 千円
	計	49,403 千円
規模	RC 造二階建	478.28 ㎡
設備	チーズ工房、チーズ・お菓子販売コーナー、レストラン	
管理	指定管理者(㈱アンジュ・ド・フロマージュ)	

ブナウォッチング

天然記念物「歌才ブナ林」には散策路では、幹がスラリと伸び枝葉が上に広がる「北のヤシの木」と呼ばれる姿を見ることができます。

新緑のブナが美しい 6 月下旬にブナウォッチングツアーが開催され、写真の雪国の民具「かんじき」を履いて雪上のブナ林を散策するかんじきブナウォッチングツアーは 2 月下旬開催です。

フットパス

イギリス発祥の小道「フットパス」をボランティアとともに手づくりで整備しています。

それぞれ離れた場所にある交流施設間を結ぶ４コース（26km）に加え、今後も新たなコースが自然発生的に増えていくことが予想されます。

自然や農村景観を眺め自分のペースで歩き、随所で黒松内の食を味わいます。

ビーフ天国

黒松内は酪農と畜産が基幹産業であり、本イベントのメインは、特産の牛肉をバーベキューで味わうことができることです。

会場では、牧草の早積み競争などのアトラクションも行なわれ、約１万人の方が訪れる黒松内最大のイベントです。

自然体験・イベント

黒松内の自然を活かした体験メニューを提供してきました。

黒松内の食

平成元年、特産のもち米「おんねもち」を用いた焼酎の委託醸造からはじまり、風土が似ているヨーロッパの田舎のおもてなしの食（パン、チーズ、ハム･ソーセージ、ワイン）を地元産品を原料に製造する取組みを行なってきました。

この他にも、ミネラルウォーター、おからの出ない豆腐、朱太川で獲れた鮎などのバリエーションが加わり、黒松内オリジナルの食でもてなす環境が充実してきました。

景　観

黒松内町の自然景観に調和した建築デザイン、色彩配慮への奨励を行なうなどの景観づくりを国などの取組に先駆け実践してきました。

※本町は、景観法に定める「景観行政団体」です。

以前の黒松内市街地の風景(昭和59年)

現在の黒松内市街地の風景(平成23年)

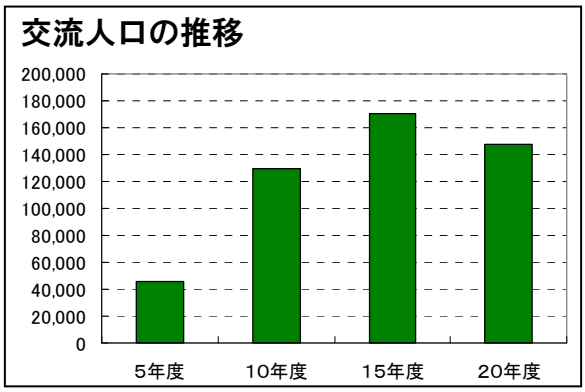
成果と今後の課題

○　２０年間の積み上げ

黒松内型の都市との交流を実践してきたことにより、町外者をも巻き込んだ多様なネットワークが形成されてきました。

ブナ北限の里づくりを着手してから２０年以上が経過し、年間約１５万人の方々が黒松内へ一定の目的を持って訪れるようになりました。また、交流施設に携わるものは７０人を超え、人口約３，２００人の本町にとって大きな雇用の場となっています。

さらに、道内都市部や本州からの移住者も増え始め、農家民宿や小物店を開店するなど、魅力的な農村空間の広がりを見せ始めています。



○　これからの展開

農村特有の田園風景、牧歌的風景は、農村の「生業（なりわい）」がもたらすものであり、食糧に負けず劣らず農業が生み出す重要な産物です。

本町では、自然と共生した２０年間の取組みがこれらを磨き上げ、一層魅力ある農村空間を築いてきました。

この素材を生かしながら、小さな農村でも、住んでいる人が活き活きしている田舎を守り続けなければなりません。

そのためにはこれからの時代、町民、町、そして町外にいる黒松内ファンが助け合いながら取組む協働のまちづくりが不可欠で、そのことを自覚して行動していくことにより、新たな黒松内ファンを生み、新たな交流、交流の延長にある二地域居住、完全移住につなげ、黒松内町しかありえないオリジナルの「自然にやさしく・人にやすらぎの田舎（まち）」を次代に継承していくことが最大の課題となります。

ブナ北限の里づくり構想は、単なる観光開発でなく、地域の財産であるブナ林を核にして川などの自然環境や牧歌的農村風景、交流施設群が有機的に結びつき、それぞれの機能を有効に発揮しながら次のポイントへ導いています。

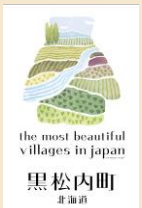
２１世紀の黒松内は、町民の財産である地域資源を、持続可能な利活用により来訪者に提供しつつ、更にまちの魅力を高めながら、ブナ北限の里らしい自然・農村空間づくりが継承されていきます。

■にほんの里１００選に選定

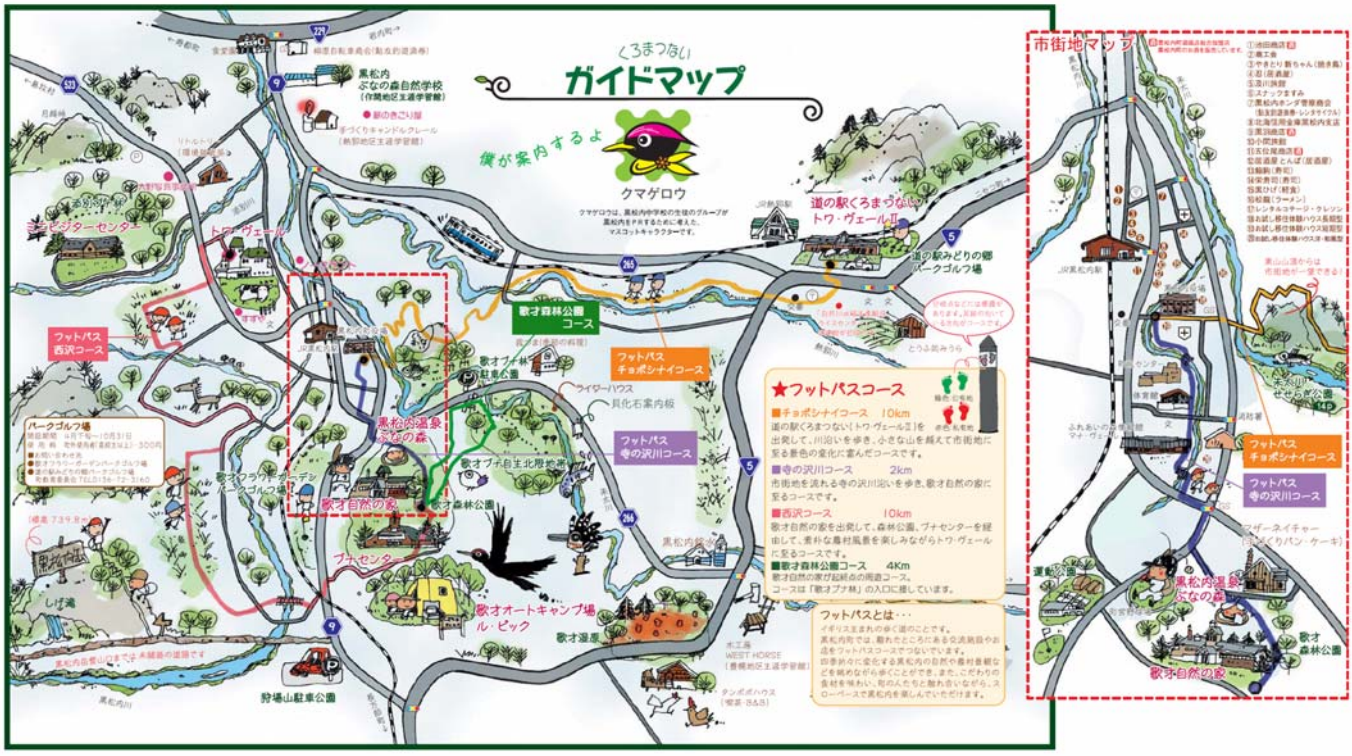
平成 21 年 1 月、朝日新聞創刊 130 周年と森林文化協会創立 30 周年記念事業の「にほんの里 100 選」に、4,474 件の応募の中から本町が選ばれました。「景観」「生物多様性」「人の営み」の 3 要素を選定基準とし、中から、健やかで美しい 100 の里を選定。

■日本で最も美しい村連合に加盟

平成 23 年 10 月、失ったら二度と取り戻せない農山村の景色や環境を守り、地域資源としての活用により地域経済の発展を目指す NPO 法人「日本で最も美しい村」連合に、本町のイメージアップにつなげ、都市との交流を一層推進するため加盟。登録資源は、「統一感のある農村景観」と「北限の歌才ブナ林」です。



黒松内町管内図
ぶなの森自然学校
特産物手作り加工センター
トワ・ヴェール
景観重要建造物
白井川ブナ林
特産物展示販売施設
トワ・ヴェールII
景観重要建造物
添別ブナ林農村自然公園
ミニビジターセンター
景観重要建造物
添別ブナ林
地域再生拠点交流観光研究実験施設
アンジュ・ド・フロマージュ
産業遺産保全活用モデル施設
黒松内町役場
歌才ブナ林
健康増進交流センター
黒松内温泉ぶなの森
景観重要建造物
自然体験学習宿泊施設
歌才自然の家
景観重要建造物
歌才湿原
歌才オートキャンプ場
ル・ピック
自然体験情報基地
ブナセンター
景観重要建造物


くろまつない
ガイドマップ
僕が案内するよ
クマゲロウ
市街地マップ
黒松内ぶなの森自然学校
道の駅くろまつない
トワ・ヴェール
道の駅みどりの郷
パークゴルフ場
ビジターセンター
トワ・ヴェール
歌才森林公園コース
フットパス西沢コース
フットパスチョポシナイコース
フットパス寺の沢川コース
パークゴルフ場
黒松内温泉ぶなの森
歌才自然の家
歌才森林公園
ブナセンター
歌才オートキャンプ場ル・ピック
歌才湿原
しげ滝
狩場山駐車公園
★フットパスコース
■チョポシナイコース 10km
道の駅くろまつない「トワ・ヴェール」を出発して、川沿いを歩き、小さな山を越えて市街地に至る景色の変化に富んだコースです。
■寺の沢川コース 2km
市街地を流れる寺の沢川沿いを歩き、歌才自然の家に至るコースです。
■西沢コース 10km
歌才自然の家を出発して、森林公園、ブナセンターを経由して、素朴な農村風景を楽しみながらトワ・ヴェールに至るコースです。
■歌才森林公園コース 4Km
歌才自然の家が起終点の周遊コース。
コースは「歌才ブナ林」の入口に接しています。
フットパスとは・・・
イギリスを始めの歩く道のことです。
黒松内町では、眺めたところにある交流施設やお店をフットパスコースとつないでいます。
ゆっくりと歩きながら黒松内の自然や農村景観などを眺めながら歩くことができ、また、こだわりの食材を味わい、町のみなさんと触れ合いながら、スローペースで黒松内を楽しんでいただけます。
黒松内温泉ぶなの森
歌才自然の家
歌才森林公園
せせらぎ公園
フットパスチョポシナイコース
フットパス寺の沢川コース

自然にやさしく人にやすらぎの田舎（まち）

ブナ北限の里づくり
をめざして

発　　行

平成２４年７月

黒 松 内 町

〒048 - 0192
北海道寿都郡黒松内町字黒松内 302 番地 1
TEL 0136-72-3311 FAX 0136-72-3316
www.kuromatsunai.com

編　　集

企画調整課